

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) - コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) - 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) - 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 体系的なカリキュラムについて、大学院委員会で検討し、2013年度までにカリキュラムを改訂する。	→大学院委員会の開催回数、各年度に提示されるカリキュラム。	C	B	B	A	/
2. 他の研究機関や大学との大学院連携を強化し、専門教育の充実を図るために、相互セミナーの開催や共同研究を行う。	→それぞれ連携先に行った学生の人数、学生の研究成果(学会発表や論文発表件数)、相互セミナーや共同研究の件数。	B	B	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	それぞれの専攻のコースワークに関することは各専攻会議(毎月)で、理工学研究科に共通して関わることは大学院委員会(年間5回)で検証している。全ての専攻で、入学時の履修登録の際に指導教員が履修指導を行う制度を整備した。2012年度も経営戦略研究科と共同でMOT(Management of Technology)科目「研究開発型ベンチャー創成」を開講した。
目標2	専門教育の充実をはかるため外部講師による42回の学術セミナーを開催した。リサーチワークの活性化のため2012年度はSpring-8に9名、産業技術総合研究所に7名の学生が配属となった。また兵庫医科大学には2名の大学院学生が配属された。
備考	